

【様式2】令和7年度 学校評価の4点セット整理票		1学期版		検証・改善フローシート										月ごとのや学期途中での検証・改善に繰り返し使用できます。														
日田市立		大山中		学校		令和7年 3月 19日		確認・検証・改善【 1 回目】										8月 6日(水)実施										
【学校の教育目標】				ふるさと大山を誇りとし、次代をたくましく生き抜く児童生徒の育成（小・中学校共通） ～高い志を持ち、主体的に学習や運動に取り組む生徒の育成（中学校）～										資質・能力との関連		担当	(評価 4:100%以上 3:80%以上100%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ※%は達成率)										学校関係者評価 (月 日)	
【育成を目指す資質・能力】				対話力の向上										知識・技能	思考力・表現力		学びに向かう力・人間性等の涵養	取組指標に対する 取組状況の確認		達成指標に対する 達成状況の確認		達成指標・取組指標の妥当性を 検証		評価 指標別	全体	改善方法		考察
重点目標	達成指標			重点的取組			取組指標						健やかな体															
基礎的・基本的な知識や技能の定着	○ 定期テスト（5教科）における問題データベースから出題する基礎・基本問題の平均正答率 7 0 %以上 R6 3学期 63%			学校	○ 基礎・基本の定着			○ 2 週間に1 回問題データベースやキュビナを使った単元テストを実施			○				2 週間に1 回問題データベースやキュビナを使った単元テストを実施 「できた」と回答した教員3/5 「半分くらいできた」と回答した教員2/5			60%	定期テスト5 教科における基礎・基本問題の正答率 期末テスト 62%			88%	3	○取り組みの継続				
	○ 生徒アンケートで「使える表現が増えたり構成を考えて文章を書いたりできるようになった」と答える生徒 7 5 %以上 R6 3学期 63%				○ 文章構成や適切なことばを選ぶ力の育成			○ 朝学習の時間に読書を行い、週末に読書日記を作成させる			○				7・8 年生は計画通りに朝読書と読書日記を実施できたが、9 年生は別の朝学習課題を実施した			66%	生徒アンケート 「使える表現が増えたり構成を考えて文章を書いたりできるようになった。」と答えた生徒46%			61%	2	○「文章構成の参考にするために、読書日記の内容で構成の良い文章を提示し、自分のものと常に比較できるようにする。さらに『おすすめの本の紹介』作成を月に1 回行う。」を取組指標に追加する。 ○取り組みの継続 生徒アンケートで「使える表現が増えたり構成を考えて文章を書いたりできるようになった。」は6 0 %以上に下方修正する。				
					○ 家庭内での会話の推進			○ 保護者は、毎日子どもとの会話を心掛け実践する。			○	○			「できた」と回答した保護者16/26 「半分くらいできた」と回答した保護者10/26			62%										
				地域	○ あいさつ＋声かけを行う			○ 地域でのあいさつに声掛けをプラスして行い、会話する。			○	○						○生徒アンケートで「使える表現が増えたり構成を考えて文章を書いたりできるようになった。」と答える生徒 7 5 %以上 R6 3学期 63%										
表現力の向上	○ 期末テスト（全教科）における記述式回答の回答率 8 0 %以上 R6 3学期 データなし			学校	○ 短学活の充実			○ 毎日の短学活に「対話」させる場面を位置付ける				○		毎日の短学活に「対話」させる場面を位置付けができていた学年 3/3			###	期末テスト（全教科）における記述式回答 回答率 80%			###	4	○取り組みの継続。					
	○ 期末テスト（全教科）における思考力・判断力・表現力を問う記述式問題の正答率 6 5 %以上 R6 3学期 66%				○ 生徒活動の充実			○ 週1 回の生徒活動の時間に問題解決的な展開を仕組み、全校生徒で意見交換をさせる				○	○	生徒活動の回数 1 0回 全校生徒で意見交換をさせた回数 3 回			30%	期末テスト（全教科）における思考力・判断力・表現力を問う記述式問題の正答率 65%			###	4	○取り組みの継続。					
	○ 生徒アンケートで「小集団（ペア）の話し合いで、自分の考えを友だちに伝えたり深めたりすることができた」と答える生徒 7 5 %以上 R6 3学期 67%			家庭	○ 家庭学習の確立			○ 保護者は、学期に1回以上、家庭学習時間の点検・評価を行う					○	「できた」と回答した保護者12/26 「半分くらいできた」と回答した保護者12/26			48%	生徒アンケート 「小集団（ペア）の話し合いで、自分の考えを友だちに伝えたり深めたりすることができた」と答えた生徒 52%			69%	2	○生徒アンケート「話し合い活動を通して、自分の考えがより明確になったり、相手の意見の良さが分かったり、新しい解決の糸口を見つたりできるようになった」に変更し、7 5 %以上の達成を目指す。 ○重点的取組を「対話のレベルの習得」に変更する。 対話レベルを「聴くこと」「話すこと」スキル表により、現在の自分のレベル、次に目指すレベルを明示する。					
					地域	○ 表現する場の設定			○ 月1 回の「読み聞かせ」終了後、感想発表や意見交換の場を設定する				○		読み聞かせの回数 4 感想発表や意見交換の場を設定した回数 4			###										
他者との協働	○ 生徒アンケートで「いじめや差別をしない・許さない生活ができた」と答える生徒 8 5 %以上 R6 3学期 76%			学校	○ いじめや差別をしない・許さない生徒育成のための生徒会活動の実践			○ 大山中学校人権宣言及び、各学級の則に関する振り返りの場を学期に1 回以上設定する。				○		人権標語の作成と優秀作品の選定を行ったが、大山中学校人権宣言及び、各学級の則に関する振り返りはできていない			0%	生徒アンケート 「いじめや差別をしない・許さない生活ができた」と答えた生徒 69%			81%	3	○「いじめや差別をしない・許さない生徒育成のための生徒会活動」は、目標85%以上に対し、達成状況は69%であった。引き続き、生徒会活動の活性化のために、達成指標及び取組指標の活用は妥当である。 ○「地域貢献活動の実践」は、目標50%以上に対し、生徒アンケートの達成状況は35%であった。達成状況の改善を目指すことに加え、保護者への周知徹底の取り組みを検証するためにも、引き続き、同項の達成指標及び取組指標を活用する。					
	○ 生徒アンケートで「大山町の一員として、故郷に貢献できる活動に関わりたい」と答える生徒 5 0 %以上 R6 3学期 39%				○ 地域貢献活動の実践			○ 生徒会は、地域貢献活動を学期に1 回以上企画する。 地域からの要請があった場合、呼びかけを行う。				○		6月に観光案内所周辺の清掃作業を実施し、感想の交流を行った。			###	生徒アンケート 「大山町の一員として、故郷に貢献できる活動に関わりたい」と答えた生徒 35%			70%	2						
					家庭	○ 地域貢献活動への参加協力			○ 保護者は、生徒に地域貢献活動の募集があった場合、参加の声掛けや参加体制を整える。				○		「できた」と回答した保護者9/26 「半分くらいできた」と回答した保護者12/26			35%										
				地域	○ 地域貢献活動の場の提供			○ 地域は、生徒が参加できる地域貢献活動をCSを通じて学期に1 回以上提供する。				○		地域から「草刈り」1 回「地域食堂」4 回のボランティア募集があった。			###											
【働き方改革の推進】	○ 各月の目標退勤時間内に退勤する職員 7 5 %以上 R6 3学期 75%			学校等	○ チームや学年部を活用した業務の見直し			○ 管理職は月1 回時間外勤務の状況把握と要因の検証を運営委員会で行うとともに、学期に1 回の個人面談を行う			管理職			5月下旬に全職員を対象に面談を実施した月初めの運営委員会において、前年度や前月との比較データを提示し、考えられる要因についての意見交換を行った。 8 年生「ダムについての学習」でダム管理支所から4 名のゲストティーチャーが来校			###	各月の目標退勤時間内退勤の達成率 4月 83.8% 5月 94.0% 6月 94.3% 7月 87.9% 平均 90.0%			###	○目標退勤時間内の退勤達成率が高いのは、この取り組みの成果であると評価できる。一方で、達成率の上昇ほど「時間外勤務の縮減」を実感できていない教職員がいることも事実であるが、推移をみていくためにも達成指標と取り組みは妥当である。	4	○校内の取り組みは継続して行うが、「効果・効率的な働き方に努めた結果「時間外勤務時間が縮減した」実感を持つ職員の調査は、「効果・効率的な働き方」ができなかったのか、努めたが実感できないのかを明確にいくため、質問を2 つに分ける。さらに回答の平均を下方修正する。 「効果・効率的な働き方」に努めた「時間外勤務時間が縮減した」と実感を持てる2 つの回答の平均60%	2			
	○ 効果・効率的な働き方に努めた結果「時間外勤務時間が縮減した」実感を持つ職員 8 0 %以上 R6 3学期 50%				○ 地域の学校支援活動の充実			○ 学期に1 回以上、授業や行事での補助人材を提供する。 ※学校運営協議会にて地域人材の情報提供をする。							###	効果・効率的な働き方に努めた結果「時間外勤務時間が縮減した」実感を持つ職員 2/8 25%			31%	1								